

	経営学部国際経営学科
DP	<p>国際経営学科は、本学立学の精神と、本学部人材養成目的「国際感覚に富み、幅広い教養に支えられた経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成」および本学科人材養成目的「国際的な経済・経営活動に欠かせない高度な専門知識、語学力、情報処理能力を兼ね備えた人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士(経営学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を修得している。 ②企業経営の国際化に対応して世界諸地域の政治・経済・社会・文化を分析し、それを考慮した企業経営の有り方を構想できる能力を修得している。 ③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を身につけている。
CP	<p>国際経営学科は、国際経営学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得が義務付けられ、経営学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教養教育部門は、「基軸科目」、「人間を考える」、「社会に生きる」、「自然と生きる」、「情報教育科目」、「健康・スポーツ科学」、「言語コミュニケーション」の7部門から構成され、特に言語コミュニケーションを重点的に履修する。これらの科目を幅広く履修することにより、高い語学力の上に、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力など、基本的技能を養うことができるようにする。 ②専門教育部門は国際経営に関する学識を深めるための部門である。部門全体はさらに専門基礎、国際経営・経済学、国際地域、経営学、会計・ファイナンス、経営科学・情報システム、経済学・法学、実務・実習、ゼミナールの諸部門に分けられ、それらの部門内の諸科目は、体系性を踏まえて開講されている。これらの専門科目を系統的に履修し、国際フィールドワークなど実社会との接点を重視する科目も受講することにより、国際的な経済・経営活動に欠かせない高度な専門知識、語学力、情報処理能力を養うことができるようにする。 ③経営学部の教育上の特徴として、初年次の基礎ゼミナール(注:初年次教育)、専門ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けている。これは「一人一人の個性が尊重される教育を実現する」という意図によるものである。こうした少人数教育の場において、自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。 ④国際経営学科の学修成果評価基準にもとづいて、厳格な成績評価と単位認定を行い、また、ゼミ担当教員や教務担当教員が、学修行動調査やGPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。専門ゼミナールによる研究プレゼンテーション大会などを実施し、講評や表彰による評価を通じて、主体的に課題に取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。
AP	<p>国際経営学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高校までの学習による基礎学力を身につけている。 ②国際経営学科での学修を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。 ③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査、学生アンケート、TOEIC等の外部テスト、資格の取得状況等から評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>また、卒業研究では、卒業論文等の成果から、学修成果の達成状況の評価する。</p>